

2023年度環境経営レポート

(対象期間：2023年3月1日～2024年2月29日)



Shimizucho
 **清水長 金属工業株式会社**
Benefit for Future by FACE TECH

作成日：2024年5月13日

更新日：-

環境経営方針

『省資源を図り、法を遵守し「地域・地球」の環境を守る』

■ 環境理念

長い歴史の中で豊かな四季の移ろいととも自然と共生する文化を日々の暮らしや生き方の中に取り込み、脈々と受け継いできた山紫水明のまち…ここ京都は、京都議定書誕生の地として世界的に認知される環境先進都市であり、また、人的・文化的資源が融合・集積し、伝統から最先端まで幅広い分野の産業が息づく世界有数のモノづくり都市でもあります。

この京都の地で、わたしたち清水長金属工業株式会社は金属表面処理【めっき】という**環境負荷が大きく公害リスクの高い事業活動を行っているその責任の重大性をよく認識し**、「かけがえない地域・地球の環境を健全な状態で次世代に引き継いでいくことが、現存する我々の基本的責務である。」との使命感を持ち、持続可能な社会の実現に貢献し、顧客・社会から認められ求められる企業となる為、全社一丸となって、下記の行動指針に対し積極的に取り組んでまいります。

■ 行動指針

以下の指針に基づきCO₂排出量削減と省資源を図り、法を遵守し『地域・地球』の環境を守ります。

- (1) 環境関連の法令遵守（水質汚濁防止・大気汚染防止・土壌汚染防止など）
環境に関する法律及びその他顧客等の要求事項を遵守し、環境保全・公害防止に努めます。
- (2) CO₂排出量の低減（省エネルギー化・高効率化）の推進
電力・ガス等のエネルギー資源を有効利用しCO₂排出量低減や高効率化に努めます。
- (3) 廃棄物（産業廃棄物・事業系一般廃棄物）の3R化の推進
廃棄物の分別収集を推進し、再資源化など3R活動に積極的に取り組みます。
- (4) 節水活動の推進
工場で使用する水資源の節約や有効利用に積極的に取り組みます。
- (5) 化学物質の適正管理と有効利用の推進
処理液管理方法やめっき工法等を見直す事により化学物質資源の低減に努めます。
- (6) 環境啓発活動の展開
全社員が環境負荷低減を積極的に実践できるように、この環境経営方針を周知するとともに、社外にも公表します。
- (7) 地域活動として社会貢献活動の展開
自社の環境整備にとどまらず、近隣住民・地域への環境配慮に努めます。
- (8) 製品及びサービスに関する環境への配慮
環境に配慮した製品の開発・販売促進および工程プロセスの確立を推進します。
- (9) グリーン購入の推進
環境にやさしいエコ商品の優先購入や購買品の管理を推進します。

制定日 2019年 4月 1日

清水長金属工業株式会社

代表取締役社長 **近藤 慶太**

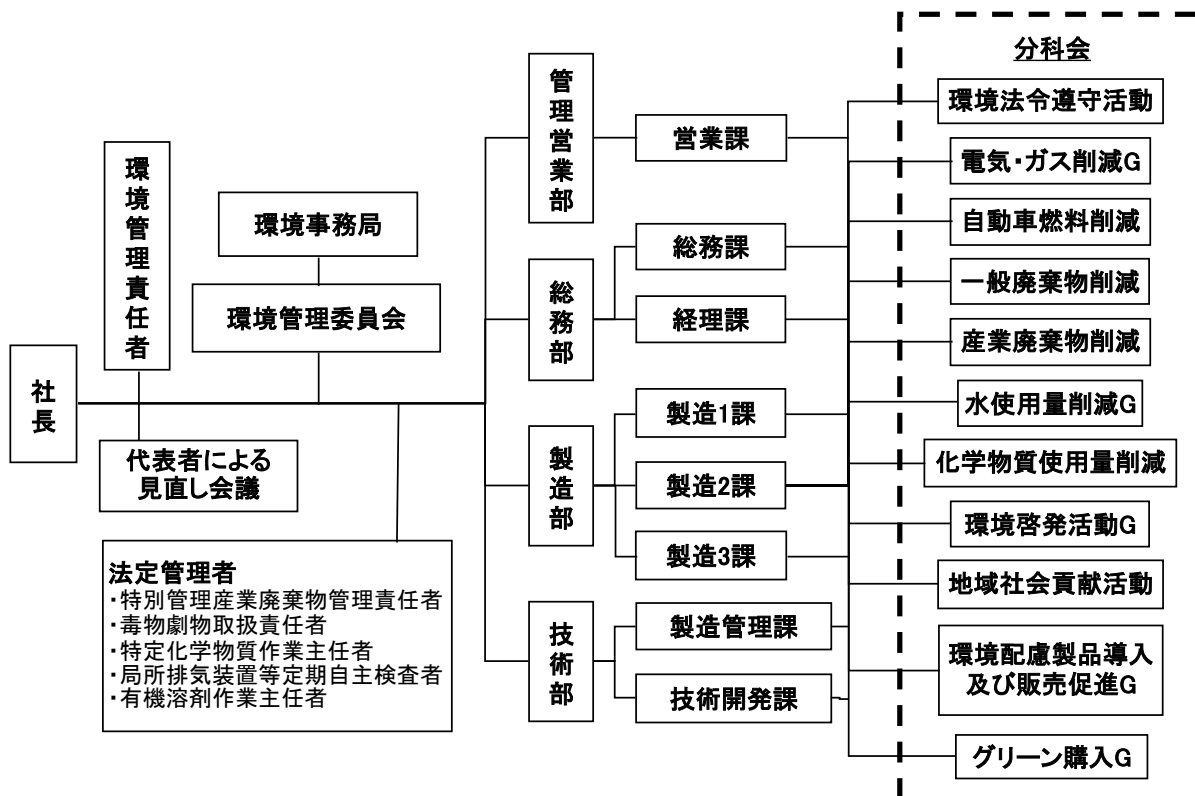
□組織の概要

- (1) 名称及び代表者名
清水長金属工業株式会社
代表取締役社長 近藤 慶太
- (2) 所在地
本社・工場: 京都市南区西九条高島町31番地
- (3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先
環境管理責任者 常務取締役 木村 昭則
担当者(環境事務局) 技術部技術開発課 課長 加藤 洋平
TEL: 075-681-7331
FAX: 075-691-2348
E-mail: c.s.-kaihatu@shimizucho.com
- (4) 事業内容
電気めっき・化学めっき及びショットブラストによる表面処理加工業
主要加工品目
電気めっき(銅・ニッケル・クロム・錫・銀・亜鉛・黒ニッケル・錫-コバルト合金)
化学めっき(ニッケル-リン・ニムテック)
ブラスト (サンドブラスト・液体ホーニング)
- (5) 事業の規模
資本金 1,500万円 床面積 3,641㎡ 従業員数 55名(2024年4月現在、役員・パート含む)
- (6) 事業年度 3月～翌年2月

□認証・登録の対象組織・活動

登録組織名: 清水長金属工業株式会社
活動: 電気めっき・化学めっき及びショットブラストによる表面処理加工業
対象: 全社・全事業

□実施体制



□主な環境負荷の実績

項目	単位	2020年度	2021年度	2022年度
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	632,442	698,399	726,589
電力	kg-CO ₂	280,016	304,255	342,633
灯油	kg-CO ₂	23,754	29,133	26,892
都市ガス	kg-CO ₂	283,257	314,399	308,191
ガソリン	kg-CO ₂	5,155	6,503	6,684
軽油	kg-CO ₂	40,260	44,109	42,189
廃棄物排出量	kg	158,596	161,765	183,677
一般廃棄物	kg	3,282	3,649	3,578
産業廃棄物	kg	155,314	158,116	180,099
総排水量	m ³	32,026	35,040	36,122
水使用量	m ³	33,409	38,097	38,896
化学物質使用量	kg	3,035	3,770	3,659

* 化学物質使用量はPRTR法第一種指定化学物質の合計使用量

* 電力の二酸化炭素排出係数は2020年度は0.334kg-CO₂/kWh 2021年度は0.318kg-CO₂/kWh
2022年度は0.350-CO₂/kWh

□環境目標及びその実績

項目	年度	基準年度	2023年度		2024年度	2025年度
			(目標) 基準年度比	(実績) 基準年度比	(目標) 基準年度比	(目標) 基準年度比
電力からのCO ₂ 排出量削減 *1	kg-CO ₂	342,633	304,311	297,755	297,755	294,664
		2022年度	88.8%	86.9%	86.9%	86.0%
都市ガスのからのCO ₂ 排出量削減	kg-CO ₂	308,191	308,191	303,298	303,298	302,027
		2022年度	100.0%	98.4%	98.4%	98.0%
自動車燃料からのCO ₂ 排出量削減	kg-CO ₂	48,873	48,384	48,124	48,384	47,896
		2022年度	99.0%	98.5%	99.0%	98.0%
ニッケル化合物使用量の削減	kg/百万円	3.693	3.878	4.026	3.765	3.730
		2022年度	105.0%	109.0%	101.9%	101.0%
シアン化合物使用量の削減	kg/百万円	1.249	1.248	1.344	1.114	1.112
		2022年度	99.9%	107.6%	89.2%	89.0%
脱脂剤使用量の削減	kg/百万円	0.379	0.379	0.426	0.398	0.394
		2022年度	100.0%	112.4%	105.0%	104.0%
一般廃棄物の削減	紙再生比	27.8%	28.0%	27.2%	28.0%	29.0%
		2022年度				
産業廃棄物の削減	kg/百万円	286.9	270.0	278.9	304.7	301.2
		2022年度	94.1%	97.2%	106.2%	105.0%
給水量の削減	m ³	38,896	39,268	37,866	37,546	37,340
		2022年度	101.0%	97.4%	96.5%	96.0%
グリーン購入		—	*2			
環境配慮型めっき製品の開発、販売促進及び工程プロセスの確	環境対応めっき販売額(千円)	—	24,000	8983	24,000	24,000
地域社会貢献活動		—	*2			

*1 電力の二酸化炭素排出係数:2022年度 0.350kg-CO₂/kWh 2023年度 0.309kg-CO₂
2024年度 0.420kg-CO₂

*2 数値目標設定が困難な為、行動目標を設定し活動した。
具体的な目標と実績は「環境活動計画と取組結果及び評価」を参照。

□環境活動計画と取組結果及び評価、次年度の取組内容

◎よくできた ○ままできた △あまりできなかった ×全くできなかった

取り組み計画	達成状況	次年度	評価、次年度の取組内容
電力からのCO₂排出量削減			
数値目標	×	□上方修正 □下方修正 ■基準見直し	
ピークカット、ピークシフト	○	継続	結果的に目標値に対し、CO ₂ 排出量評価は○、使用量原単位評価は×であった。
5S、メンテナンス	×	継続	活動としては、整える日・節電強化月間を設定したりデマンド検出抑制を展開していただいたりし、小まめな省エネ(機器:吸気口・清掃・注油)活動の展開に感謝します。
新しい設備の導入	×	継続	活動報告として、夏季保温材の設置槽・修繕槽(配管含む)の冬期での効果報告。
			今後の展開として、処理液設定温度(1℃~2℃)を見直すことで削減は期待できます。
ガスからのCO₂排出量削減			
数値目標	×	□上方修正 □下方修正 ■基準見直し	
蒸気配管等のメンテナンス	×	継続	結果的に目標値に対し、CO ₂ 排出量評価は○、使用量原単位は×であった。
保温材の取り付け修繕	○	継続	小まめな省エネ(機器:吸気口・清掃・注油)活動の継続には感謝します。
効率的なボイラ利用方法の継続	×	継続	活動報告として、夏季保温材の設置槽・修繕槽(配管含む)の冬期での効果報告。
新しい設備の導入	△	継続	今後の展開として、電力の削減同様、処理液設定温度の見直しもポイントかと考えます。
自動車燃料からのCO₂排出量削減			
数値目標	○	□上方修正 □下方修正 ■基準見直し	
ノーマイカーデーを年2回以上実施	×	継続	結果的に目標値に対し、CO ₂ 排出量評価は○であった。
燃費向上講習会を実施	○	継続	活動報告として、①ムダ走り前期12件→今期6件(内自責:4件)と大幅削減達成
車両の空気圧点検実施	×	継続	②日常の車両の整備やエコドライブ唱和での意識付け活動に敬意を表します。
エンジンオイル、エレメント点検の実施	△	継続	データの纏め方・見せ方を見直され、分かりやすかったです。
無駄走りの削減	○	継続	来期も継続願います。
エコドライブコンクールへの参加	○	継続	
車の交互運用	○	継続	
ニッケル化合物使用量の削減			
数値目標	×	□上方修正 □下方修正 ■基準見直し	
処理液の長寿命化	△	継続	結果的に目標値に対し、使用量・単位使用量共に×であった。
ニッケルめっき液の延命	○	継続	活動としては、パシペイト作業方法の手順化の実施(作業の手順のCHECK含む指導)の標準化を行って頂いてはいるが、実作業者への要指導が必要と考えます。あの時にこうしておけば良かったと思わないよう声を掛け合って間違いのない作業と確認の徹底を願います。
手順書の策定	×	継続	
シアン化合物使用量の削減			
数値目標	×	□上方修正 □下方修正 ■基準見直し	
青化銅に間欠フロアの設置	△	継続	結果的に目標値に対し、使用量・単位使用量共に×であった。
剥離液の管理	△	継続	活動としては、自動装飾青化銅めっき浴中の炭酸ソーダ増加要因となるエア搅拌量の抑制を図った。又、シアン剥離液の利用・更新履歴の把握を行って頂いた。
			剥離浴種の見直しや、シアン浴の性質を良く理解し、使用量抑制の輪を広げること。
脱脂剤使用量の削減			
数値目標	×	□上方修正 □下方修正 ■基準見直し	
油分削減活動	△	継続	結果的に目標値に対し、使用量・単位使用量共に×であった。
			活動としては、製品油分多の顧客様製品に対し、油分削減を計7件実施。オーバーフロー発生案件を受け、給水量削減分科会と連動し各関所に明示を実施。
			他、脱脂剤の濃度維持のために小分け補給を実施した。
一般廃棄物の削減			
数値目標	×	□上方修正 □下方修正 ■基準見直し	
可燃物、紙くずの分別状況の定常化	△	継続	結果的に目標値に対し、紙ごみ再生率目標は×であった。
3Rの推進	×	継続	活動としては、可燃ごみ等廃棄物の分別パトロール・及び結果の周知、入荷製品の梱包紙の再使用活動等を推進して頂き、有難うございました。
ペーパーレス運動	△	継続	今後の展開としては、マイ箸、買い物時でのマイバック使用を推進するに会社全体として全社員に支給する等し、会社として後押しの展開ポイントがあれば別途相談願います。
マイ箸運動推進	△	継続	

取り組み計画	達成状況	次年度	評価、次年度の取組内容
産業廃棄物の削減			
数値目標	×	□上方修正	□下方修正 ■基準見直し
油分の減少等による廃棄減少	○	継続	結果的に目標値に対し、排出量は○、単位排出量は×であった。活動としては、蒸気配管のドレンチェック、自動裝飾青化銅炭酸ソーダの蓄積抑制のためのエアブロー時間の抑制プロの導入等を図って頂き、有難うございました。今後の展開としては、産廃委託液を見直し社内処理が可能なものは社内排水処理が行えるよう、処理仕組みを構築すること。
黒革類の減少による酸の長寿命化	△	継続	
分別の徹底	×	継続	
不純物分析による適正管理	△	継続	
更新基準の適正管理	×	継続	
事前検知体制の強化	×	継続	
給水量の削減			
数値目標	×	□上方修正	□下方修正 ■基準見直し
ホワイトボードに毎日の水量を記入	△	継続	結果的に目標値に対し、給水量は○、給水量原単位は×であった。活動としては、夏季節水強化ポスター・ライン別給水量記載ボードの設置(見える化)。今後の展開としては、給水バルブの開き角度が個人操作によりバラツかないよう、ルール化し・見える化する。
適正水量の把握	○	継続	
ライン毎に原単位目標を決める	△	継続	
夏季、年末年始の使用量監視	△	継続	
漏れ箇所の修繕			
節水啓発ポスター掲示			
グリーン購入			
グリーン購入手順書の見直し	△	継続	数値的目標値を持たない活動ではあるが、当期については①グリーン購入手順書・新たな購入物品の登録等見直し ②他分科会等(電力削減・BCPwg・安全衛生委員会)と連携したエコ購入物品の推奨 ③消耗品等資材の持出し管理 等 幅広く活動して頂いたことに感謝します。今後の展開として、2027年度問題の蛍光灯ゼロを目指した活動を願います。
啓発活動	×	継続	
省エネ設備、エコ商品の調査	○	継続	
グリーン購入リストの見直し	×	継続	
備品等の使用量削減に繋がる活動			
環境配慮型めっき製品の開発、販売促進及び工程プロセスの確立			
数値目標	×	□上方修正	□下方修正 ■基準見直し
環境配慮皮膜の開発	△	継続	結果的に目標値に対し、特機ライン内製売上は×であった。活動として、イプロスを用い硬質無電解Ni(トライボロン)含む、AI上のめっきを主に販促。今後の展開として、環境負荷低減 ①ペーキングス、②材料加工性、③長寿命化 等記録も願う。
社内情報共有化	△	継続	
昨日めっき膜の環境メリットの提供	×	継続	
地域社会貢献活動			
会社周辺の清掃活動	○	継続	近隣住民からの苦情は0件であった。①工場内美化(周辺清掃、土間イベント)、②BCPwg運動(土嚢ステーション設置) ③エコキャップ活動の推進 ④環境緑化(7/24アオイ・ヒオウギの植栽)等 幅広く活動して頂いたことに感謝します。今後の展開として、前述事項の継続実施と近隣・地域密着策として①AEDの設置登録、②災害時協力井戸の事業所登録を目指す展開を願う。
エコキャップ運動	△	継続	
古切手回収	×	継続	
花壇の花の入れ替え	○	継続	
木の剪定	○	継続	

□環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

適用される法規制	適用される事項(施設・物質・事業活動等)
廃棄物処理法	事業系一般廃棄物、産業廃棄物(廃酸、廃アルカリ、金属くず、廃プラ等)
大気汚染防止法	局所排気装置、排風機
フロン排出抑制法	第一種特定製品の点検
水質汚濁防止法	有害物質使用特定施設の届出及び点検
下水道法	めっき設備、排水処理施設、局所排気装置
騒音規制法・振動規制法	空圧機、送風機
労働安全衛生法	集塵機、局所排気装置、めっき設備の点検、作業環境測定の実施等
消防法	シンナー、灯油の保管、消防活動阻害物質の届出
毒劇法	毒劇物の管理
PRTR法	特定化学物質の排出量及び移動量の届出
化審法	第一種特定化学物質使用の禁止

尚、関連当局からの違反指摘及び訴訟等は過去5年間ありませんでした。

□代表者による全体の評価と見直し

●今年度の全体総括

今年度は昨年度に続き業績が好調に推移し繁忙が継続しましたが、中身は内製売上高が対前年比で-3.2%減少となり、目標達成度に大きく影響を及ぼしました。

しかしながら、少数精鋭で効率よく仕事を回してくれた中で、EA21活動においても着実に行動に移し結果を出してくれたことは大変意義のある一年であったものと振り返ります。

特筆点として、

- ・電気ガスG…エネ費高騰の中、連携のチカラで無駄を廃しコスト抑制を図ってくれたこと。
- ・自動車燃料G…ムダ走りを大幅に削減できたこと、ノーマイカーデー再開などで唯一目標達成できたこと
- ・化学物質G+産廃G…処理液の長寿命化が管理技術の向上に資する活動とし定着し、確かな技術力の向上ができていくこと
- ・一般産廃G…目標未達ではあったが再生比率27.2%をマークできたこと
- ・給水G…メンバーのみならず製造課員全員が情報を共有できる仕組みを構築し安定した節水効果ができていること
- ・グリーン購入G…製造再度の購入品にまで範囲を広げ値上げラッシュの中でも代替え品をグリーン調達目線とコスト目線で取り組んでくれたこと
- ・販促G…坂ss様の革新的省エネ製品小型コンプレッサーにTB採用やデンソー様をエンドとする東海地方への新たな可能性を広げられたこと
- ・社会貢献G…苦情ゼロを達成し社会貢献となる「京の生きものプロジェクト」に参画し晴れてフタバアオイの里帰りが出来そうな事やAED・災害時の井水解放などの新たな地域貢献に寄与できる企画を提案してくれたこと

以上がハイライトとなります。たいへん有意義な一年でした。ご尽力いただいた皆様ほんとうにお疲れさまでした、そしてありがとうございました。

●次年度への課題

当社におけるEA21は12年目を迎えるなか、着実に事業活動のベースとして定着し毎年レベルアップし、経営の根幹となる組織力・技術力・原価低減管理など、あらゆる波及効果や相乗効果があったものと感じます。課題として、さらなる①地域貢献、②社内活性化(全員参加)、③内外への情報発信、④マンネリ防止、⑤SDGsへの進化、が重要と考えます。

これからも、経営理念・方針に基づき、社会から認められ求められる企業を目指してEA21を最大限に有効活用してゆきましょう！

□環境活動の紹介



ヒオウギ



フタバアオイ



京都市から「京の生きもの・文化協働再生プロジェクト」の認定を受けました
(令和5年6月5日)